

海外安全対策情報 令和2年度第4四半期（1月～3月）

1 社会・治安情勢

昨年10月18日、ギニアにおいて大統領選挙が実施されましたが、翌日、有力野党候補であるディアロ UFDG 党首が正式な選挙結果を待たず一方的に勝宣言をしたことにより、各地で野党支持者と治安当局の間の衝突や暴動が発生し、コナクリ市内では少なくとも21名の犠牲者が出ました。選挙の結果、現職のコンデ大統領が再選しましたが、今後も、野党支持者と治安当局の間の衝突や暴動等、突発的な事態が継続する可能性があります。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

全国各地で強盗が多数発生しています。幹線道路沿いでは、長距離バスやタクシーを狙った武装強盗事案も発生しています。

（1）一般犯罪・凶悪犯罪事案（主な事件）

ア キンディア県

1月、タクシーを狙った武装強盗が発生し、現金が持ち去られました。

イ ラベ県

2月、バイクを狙った強盗が発生し、運転手が負傷しました。その後、容疑者は住人に捕まり暴行を受ける事件となりました。

ウ ヨムー県

3月、バイクタクシーが武装強盗に遭い、現金が持ち去られる被害がありました。

（2）邦人被害事案

在留邦人の被害事案は確認されていません。

（3）在留外国人（邦人以外）の被害事案

在留外国人の被害事案は確認されていません。

3 テロ・爆弾事件発生状況

ギニア国内ではテロ・爆弾事件は発生していませんが、治安当局は昨今の西アフリカ諸国におけるテロ発生を受けて、主要なホテルや公共施設に治安部隊を配置し警戒に当たっています。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

在留邦人、在留外国人の被害事案は確認されていません。

5 対日感情

ギニア国民の対日感情は概ね良好です。

6 日本企業の安全に関わる諸問題

ギニア国民の対日感情は概ね良好であることから、日本企業であることを理由に犯罪の標的になる可能性は低いと思われます。

以上